

# 子育ての不安や悩みを解消するお手伝いをします

あおり  
子育てネット

## 「あおり子育てネット」

～家庭教育支援動画制作普及事業～

県総合社会教育センターでは、平成28年度から制作した子育て支援に関する48本の動画をホームページで公開しています。

また、令和2年度に制作した6つの動画は「YouTube」でも公開しています。「子どもの叱り方」、「ソーシャルメディアとの付き合い方」等、子育ての悩みに沿った内容となっています。今年度も新たなテーマで制作し、コンテンツを増やしていく予定です。ぜひご覧ください。



問 県総合社会教育センター 教育活動支援課 TEL.017-739-1270 <https://www.all.s.pref.aomori.lg.jp>



## 「すこやかほっとライン」

～子育てで困ったら、ひとりで悩まず、まずは電話かメールで相談～

子育て中の不安や悩みを軽減することを目的として、乳幼児から高校生までの子をもつ保護者やその家族を対象に、電話・メール等により、寄り添い型の家庭教育相談を行っています。

【対象】：乳幼児から高校生までの子をもつ保護者やその家族

○電話相談 017-739-0101 毎週月・水・木曜日13:00～16:00(祝日・年末年始を除く)

○メール相談 24時間受付 <https://kosodate-a.net>

## 「あおり家庭教育アドバイザー派遣」

～子育てあるあるエピソードを通じ、家庭教育についてアドバイザーと一緒に考えてみませんか～

参加型学習プログラム「あおり親学プログラム」を活用した研修会に、その進行役(ファシリテーター)となる「あおり家庭教育アドバイザー」を派遣しています(派遣にかかる経費(旅費)は当センターが負担します)。申込書は、当センターホームページからダウンロードできます。



## おしらせ

県教育委員会では、より良い紙面づくりのため、皆様からのご意見、ご感想、ご要望をお待ちしております。県教育庁教育政策課情報広報グループ広報担当(TEL.017-734-9868)までご連絡ください。

### 青森県立郷土館巡回展

#### 「ふるさとの宝物ー県立郷土館コレクションー」

青森県立郷土館では、本県の自然や歴史、文化に関する資料を豊富に収蔵するとともに、学芸員による調査研究の成果を蓄積しています。現在、当館は休館中ですが、所蔵する資料を多くの方々にご覧いただけるよう県内5会場を巡回する展示会を開催しています。

開催地域にゆかりのある、会場限定の資料も展示しますので、ぜひご覧ください。

○開催日時/令和3年9月4日(土)～26日(日) 9:00～17:00

○場所/つがる市生涯学習交流センター「松の館」

○観覧料/無料



問 青森県立郷土館 TEL.017-777-1585 <https://www.kyodokan.com/>

青森県立郷土館 検索

### 青森県立図書館からのお知らせ

#### ◆おはなし会

読み聞かせボランティアと図書館職員による絵本の読み聞かせや、子供たちからリクエストのあった絵本の紹介。

○日 時/令和3年9月11日(土)、10月9日(土)、11月13日(土)

いずれも14:00～14:30

○場 所/青森県立図書館4階集客室

#### ◆おしえて先生!知るしるする探検隊

科学の実験やいろいろな仕事の人の交流、スポーツなどの体験、本の紹介など。

○日 時/令和3年9月25日(土)、10月23日(土)、11月27日(土)

いずれも14:00～14:30

○場 所/青森県立図書館4階集客室



問 青森県立図書館 TEL.017-739-4211 <https://www.plib.pref.aomori.lg.jp/>

青森県立図書館 検索

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、事業の中止・延期又は事業内容を変更する場合がありますので、あらかじめご了承ください。

教育広報

# あおりけん

2021.8  
Vol.62

令和3年8月発行  
編集・発行/青森県教育庁教育政策課  
〒030-8540 青森市長通1丁目1番1号  
TEL.017-734-9868

北海道・北東北の縄文遺跡群  
— JOMON JAPAN —  
<https://jomon-japan.jp>

青森県教育委員会ホームページアドレス ⇒ <https://www.pref.aomori.lg.jp/bunka/education/main.html>

### 令和2年度 いじめ防止標語コンクール

優秀賞は6作品あり、毎号紹介しています (※受賞当時の学校と学年です)

優秀賞  
作品

気づこうよ 助け求める 心の声

五所川原市立五所川原第三中学校 1年 古川 蓮

えがお100 やさしさ100で いじめ0

弘前市立岩木小学校 1年 加藤 壮真

## 祝「北海道・北東北の縄文遺跡群」世界文化遺産登録

～特別史跡 三内丸山遺跡～

### 世界遺産登録記念式典を開催しました!

令和3年7月27日、第44回世界遺産委員会で「北海道・北東北の縄文遺跡群」の世界文化遺産登録が決まりました。

三内丸山遺跡では登録を記念して、翌28日に記念式典を開催し、近隣の小・中学校及び高等学校の児童・生徒に記念の横断幕を除幕していただきました。

これからも、皆様に愛される三内丸山遺跡を目指して、遺跡の保全や魅力発信に努めていきますので、応援よろしくをお願いします!!

世界遺産とは、「世界の文化遺産及び自然遺産の保護に関する条約」(通称:世界遺産条約)に基づいて作成される「世界遺産一覧表」に記載されたものです。世界遺産条約は、文化遺産及び自然遺産を人類全体のための世界の遺産として損傷・破壊等の脅威から保護し、保存することが重要であるとの観点から、国際的な協力及び援助の体制を確立する目的で作られました。



三内丸山遺跡って  
こんなトコロ!!

歴史の教科書にも登場する日本最大級の縄文遺跡です。平成4年から実施した県営野球場建設に伴う大規模な発掘調査により、約5900年前から4200年前の長期間にわたる集落の跡が発見されました。500棟を超える堅穴建物跡やたくさんのお墓の跡、多量の土器や石器が出土する盛土などが見つかりました。中でも直径が1m近くもあるクリの柱の一部が見つかった大型掘立柱建物跡の発見は、全国的に注目を集め、平成6年8月にはその重要性から遺跡の保存が決まりました。現在は縄文のたたずまいを感じることができる場として復元建物や展示室等を整備・公開しています。

### 世界文化遺産登録記念関連イベント

#### 世界文化遺産登録記念シンポジウム 「世界遺産登録から未来へ～これからの三内丸山～」

縄文遺跡の価値や魅力を紹介し、将来へ継承する方法について、講演や報告をとおして考えていきます。

日 時:9月5日(日) 13:00～15:30

会 場:ホテル青森 入場料:無料

定 員:200名(事前申込みによる先着順)

※応募方法については下記ホームページをご覧ください。



#### さんまるのイベント情報

三内丸山遺跡センターでは1年をとおして様々なイベントを開催しています。

シカの骨で釣り針作りなどを体験する「さんまる縄文体験」は1月まで、特別展「あおりの縄文世界」のテーマを掘り下げる「さんまる縄文学講座」は11月まで実施しています。

また、9月まで発掘調査の現場を公開しており、職員の解説を聞きながら調査を見学することができます。

※参加は無料ですが、別途観覧料が必要です。また、事前申込が必要な場合もございますので、開催スケジュール等詳細は三内丸山遺跡センターホームページ等でご確認ください。



▲発掘調査現場公開の様子

特別展

## あおりの縄文世界

JOMON AOMORI

世界文化遺産「北海道・北東北の縄文遺跡群」の構成資産等、青森県内の縄文遺跡から出土した数々の出土品をとおして、縄文人の生活や精神文化、美意識について紹介します。縄文人が築いた持続可能な社会の様子や、豊かな精神性・美意識を映し出す出土品を是非ご覧ください。



会 期:7月17日(土)～11月28日(日)  
※8月23日、9月27日、10月25日、11月24日は休館日  
観 覧 料:一般800円(640円)、高校・大学生400円(320円)、中学生以下無料( )内の料金は団体料金  
※特別展の料金で遺跡を含む常設展も観覧いただけます。  
観 覧 時 間:9:00～18:00(～9月30日)  
9:00～17:00(10月1日～11月28日)



三内丸山遺跡センター TEL:017-766-8282  
<https://sannamaruyama.pref.aomori.jp/>



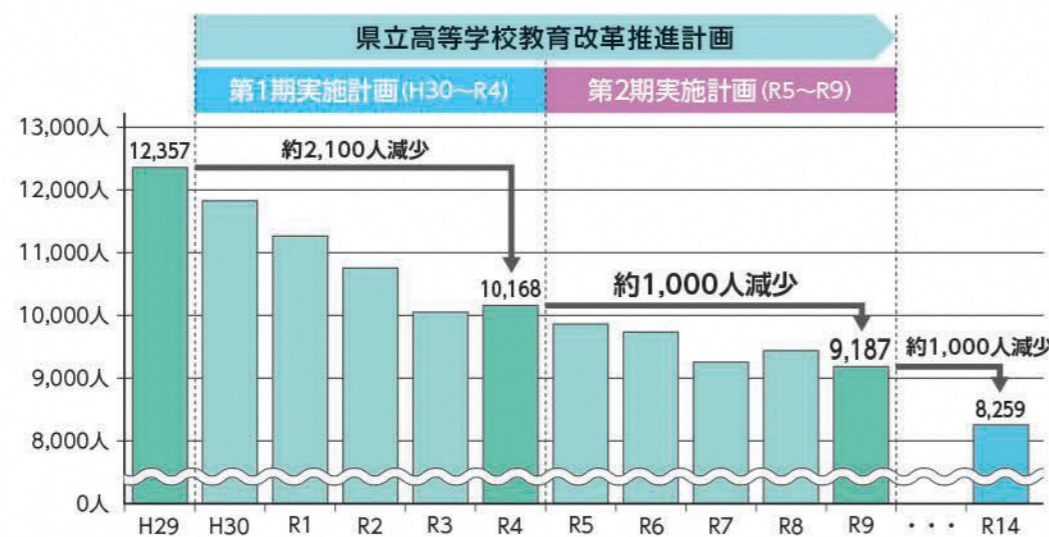
# 青森県立高等学校教育改革推進計画 第2期実施計画(案)

県教育委員会では、令和5年度から令和9年度までを計画期間とする「青森県立高等学校教育改革推進計画第2期実施計画(案)」を令和3年7月7日に公表し、現在、決定に向けた検討を進めています。

## 県立高校教育改革の背景

- 社会の急速な変化  
(グローバル化の進展等)
- 高校教育を巡る環境の変化  
(学習指導要領改訂等)
- 進路志望等の多様化
- 中学校卒業予定者数の減少  
(第2期実施計画期間中に約1,000人減少)

＜県全体の中学校卒業予定者数の推移＞

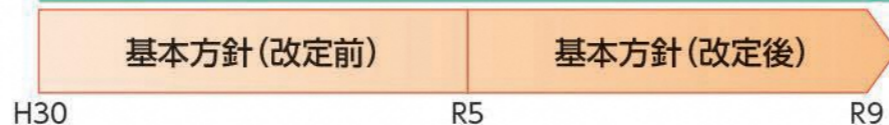


## 第2期実施計画策定の経緯

第2期実施計画は、令和2年8月に改定した基本方針を踏まえるとともに、地区懇談会やパブリック・コメントでいただいた意見等を参考としながら、更なる検討を重ねた上で策定します。

時期	取組内容
平成28年 1月	青森県立高等学校将来構想検討会議答申
平成28年 8月	基本方針策定
平成29年 7月	第1期実施計画策定
令和 2年 3月～5月	基本方針検証会議開催
令和 2年 8月	基本方針改定
令和 2年 9月 ～令和 3年 2月	地区意見交換会(県内6地区×3回)開催
令和 3年 7月	第2期実施計画(案)公表
令和 3年 7月～8月	地区懇談会、パブリック・コメント実施
令和 3年10月	第2期実施計画策定(予定)

## 高校教育改革に関する基本的な考え方(おおむね10年)



## 学科改編や地区ごとの具体的な学校規模・配置等



## ＜第2期実施計画策定・推進の考え方＞

- 充実した教育環境の整備と各地域の実情への配慮
- 生徒の学習意欲を喚起し、可能性及び能力を最大限に伸ばすための魅力ある高校づくりの更なる推進

## ■ご意見等の宛先

〒030-8540 青森市長島1-1-1 青森県教育庁高等学校教育改革推進室  
電話:017-734-9866 FAX:017-734-8003  
メール:E-KAIKAKU@pref.aomori.lg.jp

## ■ホームページ

<https://www.pref.aomori.lg.jp/bunka/education/kenritukoutougakkoukyouikukaikaku.html>

詳しくは ▶ 青森県立高等学校教育改革 検索

## ご意見・ご要望について

県教育委員会では、県民の皆様からの「県立高校教育改革に関するご意見・ご要望」を随時お受けしています。

いただいたご意見・ご要望は今後の県立高校教育改革の参考とさせていただきます。



## 学校・学科の充実

創意工夫を生かした特色ある教育活動を進めるとともに、本県の未来を担う人材を育成できるよう、次のとおり取り組みます。

※人材:「青森県基本計画「選ばれる青森」への挑戦」等では「人は青森県にとっての「財(たから)」である」という基本的考えから、「人材」を「人材」と表記しています。

## 全ての高校に共通して求められる教育環境

### カリキュラム・マネジメントの適切な実施

- 県教育委員会において、スクール・ミッション(各校に求められる役割や目指すべき学校像等)を明確化します。
- 各校において、スクール・ポリシー(一貫性を持って教育活動を進めるための具体的な方針)を策定します。
- 各校において、教育活動の充実を図るカリキュラム・マネジメントを適切に実施します。

### 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善等

- 生徒に基礎的・基本的な知識・技能を確実に定着させるとともに、未来を切り拓いていくために必要な力を育みます。
- STEAM教育の視点を取り入れながら、探究的な学びを重視した教育活動を展開します。  
※STEAM教育:各教科における学習を実社会の問題発見・解決に生かしていくための教科等横断的な教育であり、幅広い分野で新しい価値を創造できる人材の養成を目指すものです。

### 社会人・職業人として自立するために必要な能力や態度の育成

- 小・中学校におけるキャリア教育の成果を受け継ぎながら、教育活動全体を通じたキャリア教育に取り組みます。
- 地域・企業等と連携したインターンシップや大学等と連携したアカデミック・インターンシップ等の充実を図ります。



## 全日制課程

### 普通科等の充実

#### 各校の教育環境の充実

- 大学等への進学や就職等、生徒の幅広い進路志望に対応するとともに、様々な分野で活躍できる人材の育成に向け、地域の実情に応じた教育活動や各校の特色を生かした取組を推進します。

#### 重点校と各校の連携による取組

- 探究活動の特色ある教育活動の中核的役割を担う重点校を配置し、県全体の普通科等における教育の質の確保・向上を図ります。

重点校の配置	東青地区	西北地区	中南地区	上北地区	下北地区	三八地区
	青森高校	五所川原高校	弘前高校	三本木高校	田名部高校	八戸高校

- 重点校が実施する研究会や講習会等への各校の生徒の参加、学習成果の共有に向けた生徒同士の交流等の連携を進めます。

#### 学科改編

#### ■外国語科→グローバル探究科【青森南高校】

#### 外国語科の学習内容を発展的に見直しグローバル探究科へ改編

- 国際バカロレアの理念に基づき、生徒がグローバルに活躍するために必要な語学力や、課題発見・解決能力を身に付けられる学習の充実を図ります。
- 国内外の学校等と協働しながらSDGsの実現等に着目した探究活動を実施します。

※国際バカロレア:国際バカロレア機構が実施する「多様な文化の理解と尊重の精神を通じて、より良い、より平和な世界を築くことに貢献する、探究心、知識、思いやり」に富んだ若者の育成」を教育理念とした国際的な教育プログラムです。

学校名	R4	R5～R9
青森南	普通	変更なし
	外国語	グローバル探究



### 総合学科の充実

#### 各校の教育環境の充実

- 自身の個性の発見や自己の在り方・生き方の考察をさせることで、将来を見据えた主体的な系列選択を促すとともに、多様な選択科目の充実を図り、生徒の幅広い進路志望に対応します。

## 定時制課程・通信制課程

### ■定時制課程

- 家庭・地域等と連携しながら生徒一人一人に寄り添った指導や支援を実施します。
- 専門スタッフによるよりきめ細かな支援体制の整備等を推進します。

### ■通信制課程

- 生徒の多様なニーズ等に対応するため、ICTを活用した学習・相談体制を構築します。
- 後期入学や年度中途からの転入学・編入学の実施を通して幅広く学びの機会を提供します。



### 職業学科を主とする専門学科の充実

#### 各校の教育環境の充実

- 基礎的・基本的な知識・技能に加え、職業の多様化に対応できる資質・能力を育むとともに、社会の発展に貢献できる人材の育成に向け、地域・企業等と連携・協力した取組を推進します。

#### 拠点校と各校の連携による取組

- 農業科・工業科・商業科の学習の拠点としての役割を担う拠点校を配置し、県全体の職業教育を主とする専門学科における教育の質の確保・向上を図ります。

拠点校の配置	農業科	工業科	商業科
	五所川原農林高校 三本木農業恵拓高校	青森工業高校 弘前工業高校 八戸工業高校	青森商業高校

- 拠点校が実施する技術講習会や出前講座等への各校の生徒の参加、学習成果の共有に向けた生徒同士の交流等の連携を進めます。

#### 学科改編

#### ■農業科

#### 【五所川原農林高校】

#### 森林科学科と環境土木科を統合し環境科学科へ改編

森林の構造・機能・育成、農業土木、環境保全等に関する学習の充実を図ります。

#### 【柏木農業高校】

#### 生活科学科を生物生産科へ統合

農業生産や農業経営等に加え、地域資源の活用に関する学習の充実を図ります。

#### ■工業科

#### 【むつ工業高校(下北地区統合校)】

#### 電気科と設備・エネルギー科を統合し電気・エネルギー科へ改編

発電や送電、電気配線工事、エネルギー等に関する学習の充実を図ります。

学校名	R4	R5～R9
五所川原農林	生物生産 → 変更なし 森林科学 → 環境科学 環境土木 → 環境科学 食品科学 → 変更なし	
柏木農業	生物生産 → 生物生産 生活科学 → 生物生産 環境工学 → 変更なし 食品科学 → 変更なし	

学校名	R4	R5～R9
むつ工業 (下北地区統合校)	機械 → 変更なし 電気 → 電気・エネルギー 設備・エネルギー → 電気・エネルギー	

## 学校規模・配置

学校・学科の選択肢や生徒の通学環境等に配慮しながら、学校規模の標準を踏まえた計画的な学校配置に次のとおり取り組みます。

### 全日制課程

東青地区（中学校卒業生数(見込み) R4:2,492人 → R9:2,216人(△276)		(単位:学級)		
学校・学科	年度・学級数等	第1期 R4	第2期実施計画 R5~R9 期間内増減	備考
青森	普通	6	6	重点校
東青地区統合法	普通	—	6	R9 募集開始
青森西	普通	6	0	△6 R9 募集停止
浪岡	普通	2	0	△2 R10 年度未閉校
青森東	普通	6	6	
青森北	普通	4	4	
	スポーツ科学	1	1	
青森南	普通	4	3	△1
	グローバル探究	—	1	+1 外国語科を グローバル探究科 に改編
	外国語	1	0	△1
青森中央	総合	5	4	△1
	機械	1	1	
	電気	1	1	
青森工業	電子	1	1	拠点校
	情報技術	1	1	
	建築	1	1	
	都市環境	1	1	
青森商業	商業	4	4	拠点校
	情報処理	1	1	
地区計		46	42	△4

### 青森西・浪岡→東青地区統合法

統合年度:令和9年度  
設置場所:青森西高校の校地(既存校舎を活用する予定)  
学科構成:普通科6学級  
<統合法の方向性>  
【統合法が目指す姿】  
○生徒の個性や能力を伸ばし、生徒の幅広い進路志望の実現に寄与する高校  
○地域と連携・協働した探究的な学びを通して、生徒の地域社会の発展に貢献する意識を醸成する高校  
【統合法における教育活動の例】  
○生徒一人一人の学習ニーズに応じたきめ細かな指導や、社会的・職業的自立に向けた系統的なキャリア教育の推進  
○地域行事への積極的な参加等、地域の歴史・文化に対する理解や愛着を深める教育活動の推進  
○地域資源を活用したボランティア活動等、社会に積極的にに関わり、地域の魅力を国内外に発信する教育活動の推進

中南地区（中学校卒業生数(見込み) R4:2,112人 → R9:1,935人(△177)		(単位:学級)		
学校・学科	年度・学級数等	第1期 R4	第2期実施計画 R5~R9 期間内増減	備考
弘前	普通	6	6	重点校
弘前中央	普通	6	5	△1
弘前南	普通	6	5	△1
黒石	普通	3	3	
	情報デザイン	1	1	
	看護	1	1	
柏木農業	生物生産	1	1	生活科学科を 生物生産科に統合
	環境工学	1	1	
	食品科学	1	1	
	生活科学	1	0	△1
弘前工業	機械	1	1	拠点校
	電気	1	1	
	電子	1	1	
	情報技術	1	1	
	土木	1	1	
	建築	1	1	
	商業	2	2	
弘前実業	情報処理	1	1	
	家庭科学	1	1	
	服飾デザイン	1	1	
	スポーツ科学	1	1	
地区計		39	36	△3

西北地区（中学校卒業生数(見込み) R4:985人 → R9:824人(△161)		(単位:学級)		
学校・学科	年度・学級数等	第1期 R4	第2期実施計画 R5~R9 期間内増減	備考
五所川原	普通	4	4	重点校
	理数	1	1	
木造	総合	4	3	△1
鯉ヶ沢	普通	1	*	1 地域校
	普通	2	2	
五所川原工科	機械	1	1	
	電子機械	1	1	
	電気	1	1	
	生物生産	1	1	拠点校
	環境科学	—	1	+1
五所川原農林	森林科学	1	0	△1 森林科学科と環境 土木科を統合し、 環境科学科に改編
	環境土木	1	0	△1
	食品科学	1	1	
地区計		19	17	△2

### 地域校の規模・配置等に係る基準等

<2学級規模の地域校> 入学人数が40人以下の状態が2年間継続した場合、原則として翌年度に1学級規模とします。  
<1学級規模の地域校> 募集人員に対する入学人数の割合が2年間継続して2分の1未満(20人未満)となった場合、募集停止等に向け、当該高校の所在する市町村等と協議します。  
【地域校の活性化に向けた対応】  
地域校の活性化に向け、学校関係者と市町村関係者等で構成する地域校活性化協議会(仮称)における協議結果等を踏まえ、学校と地域等が一体となって教育環境の充実に取り組みます。

※地域校の規模・配置については、基本方針に基づき入学状況により対応

下北地区（中学校卒業生数(見込み) R4:578人 → R9:464人(△114)		(単位:学級)		
学校・学科	年度・学級数等	第1期 R4	第2期実施計画 R5~R9 期間内増減	備考
田名部	普通	5	5	重点校
下北地区統合法	総合	—	3	+3
	機械	—	1	+1 R9 募集開始
	電気・エネルギー	—	1	+1
大湊	総合	4	0	△4 R9 募集停止
	機械	1	0	△1 R10 年度未閉校
むつ工業	電気	1	0	△1
	設備・エネルギー	1	0	△1
大間	普通	* 2	* 2	地域校
地区計		14	12	△2

※地域校の規模・配置については、基本方針に基づき入学状況により対応

上北地区（中学校卒業生数(見込み) R4:1,583人 → R9:1,486人(△97)		(単位:学級)		
学校・学科	年度・学級数等	第1期 R4	第2期実施計画 R5~R9 期間内増減	備考
三本木	普通	6	6	重点校
三沢	普通	* 6	5	△1
野辺地	普通	2	1	△1
七戸	総合	3	3	
百石	普通	2	2	
	食物調理	1	1	
六ヶ所	普通	* 1	* 1	地域校
	普通	2	2	
三本木農業恵拓	植物科学	1	1	拠点校
	動物科学	1	1	
	環境工学	1	1	
	食品科学	1	1	
	機械・エネルギー	1	1	
十和田工業	電気	1	1	
	電子	1	1	
	建築	1	1	
三沢商業	商業	2	2	
	情報処理	1	1	
地区計		34	32	△2

※三沢高校については、第1期実施計画に基づき令和4年度に学級減を予定していたが、第2期実施計画期間中の中学校卒業生数の増加・減少の幅が大きくなることが見込まれ、これらの変動に対応する必要があることから、第2期実施計画期間に学級減を行う予定  
※地域校の規模・配置については、基本方針に基づき入学状況により対応(六ヶ所高校については、令和2~3年度の入学人数が2年間継続して40人以下のため、令和4年度に1学級規模とする予定)

### 大湊・むつ工業→下北地区統合法

統合年度:令和9年度  
設置場所:むつ工業高校の校地(校舎を新たに整備する予定)  
学科構成:総合学科3学級、工業科2学級(機械/電気・エネルギー)  
<統合法の方向性>  
【統合法が目指す姿】  
○幅広い知識や視野を身に付けさせ、生徒一人一人の進路志望を実現する高校  
○生徒の個性や能力を伸ばさせ、豊かな社会の実現に寄与する高校  
○専門的な知識・技能を身に付けさせ、地域産業の発展に貢献する高校  
【統合法における教育活動の例】  
○学科や系列の枠を超えた探究活動を行うなど、総合学科と工業科の連携による教育活動の推進  
○地域の社会人や有識者の積極的な活用や多様な選択科目の開設等、生徒の進路意識を高める教育活動の推進  
○熟練技能者による技術指導や大学・企業との連携による最先端技術の学習等、高い専門性を身に付けさせる教育活動の推進

三八地区（中学校卒業生数(見込み) R4:2,418人 → R9:2,262人(△156)		(単位:学級)		
学校・学科	年度・学級数等	第1期 R4	第2期実施計画 R5~R9 期間内増減	備考
八戸	普通	6	6	重点校
八戸東	普通	5	4	△1
	表現	1	1	
八戸北	普通	6	5	△1
八戸西	普通	5	5	
	スポーツ科学	1	1	
三戸	普通	1	* 1	地域校
名久井農業	生物生産	1	1	
	環境システム	1	1	
	海洋生産	1	1	
八戸水産	水産食品	1	1	
	水産工学	1	1	
八戸工業	機械	1	1	拠点校
	電気	1	1	
	電子	1	1	
	土木	1	1	
	建築	1	1	
八戸商業	材料技術	1	1	
	商業	2	2	
	情報処理	1	1	
地区計		39	37	△2

※地域校の規模・配置については、基本方針に基づき入学状況により対応

## 定時制課程・通信制課程

### 定時制課程

○学級数の増減なし



### 通信制課程

○募集人員の増減なし



## 魅力ある高校づくり

中学生から選ばれる魅力ある高校となるよう、各校の実情に応じて次のとおり取り組みます。

### 学校・家庭・地域等との連携の推進

●国内外の高校や大学等と連携した共同事業体(コンソーシアム)の構築等による生徒の進路志望に応じた高度な学びの提供や、地域への理解を深める学習である「あおり創造学」を進めることによる生徒の「ふるさとあおり」への愛着や誇り、夢を抱き未来に向かって挑戦する意欲の醸成等に取り組めます。

### 教育活動の充実にに向けた取組

#### 全国からの生徒募集の導入

●県外から目標を持った生徒を受け入れ、近年、入学人数が定員に満たない高校の活性化を進めるため、高校が所在する市町村の意向等を踏まえながら、全国からの生徒募集を導入(令和5年度入学選抜からの導入を基本)します。

#### その他の取組

●「各校に関する情報発信の充実」、「特別な支援を必要とする生徒等への対応」、「ICTの活用による教育活動の充実」、「施設・設備の充実」等に取り組む、学校内外の教育資源を積極的に活用しながら、中学生に選ばれる魅力ある高校となるよう、各校の特色化・魅力化を図ります。

### 全国からの生徒募集導入校の決定方法

以下のいずれかに該当する高校(候補校)のうち、高校が所在する市町村から支援を前提とする申し出があった高校について、県教育委員会と市町村が協議した上で導入校として決定

①第2期実施計画において地域校とする高校

(鯉ヶ沢高校、六ヶ所高校、大間高校、三戸高校)

②過去5年の定員充足率の平均が90%以下の高校

(第2期実施計画における統合対象校を除く)  
(柏木農業高校、野辺地高校、七戸高校、名久井農業高校)

## 令和3年度

# 五所川原工科高等学校・三本木農業恵拓高等学校が新たに開校しました!

五所川原工科高等学校(西北地区統合法:金木高校、板柳高校、鶴田高校、五所川原工業高校)及び三本木農業恵拓高等学校(上北地区統合法:十和田西高校、六戸高校、三本木農業高校)の取組を紹介します。

## 五所川原工科高等学校

「探究型学習」を柱として、自ら課題を発見し、解決に向けて主体的・協力的に取り組みながら新たな学びに自覚する意識・態度を養うことを目指した教育活動を実践しています。

■SDGs教育プログラム～未来を考え、探究する力を育成する～

○SDGsワークショップ(4月)

ワークショップの実施により主体的な学びや社会参加への意欲喚起を行うとともに、自己の役割を自覚し、他者と協働しながら活動することについて学びました。

○政治・経済・ものづくり分野からの学び(5月)

五所川原市長、商工会議所会長、津軽金山焼窯元による講義等を通じて地域課題に気付くとともに、社会貢献や仕事の意義について学び、自分自身の在り方や生き方を深く考えました。



■進路指導の充実

普通科において、数学・英語の習熟度別クラス展開を行っています。

👉 生徒自身が自分らしい生き方を実現するための資質や能力を育むとともに、生徒一人一人が生きて学び、主体的に活動できる開かれた学校づくりを推進します!

## 三本木農業恵拓高等学校

校訓である「自主」「創造」「敬愛」のもと、これらを実践できる資質や人間性を育むことを目指し、様々な活動に取り組んでいます。

■ICTの活用

プリント等の配布をインターネット上で行ったり、授業中の生徒の意見を画面に表示して共有したりするなど、ICTを活用した教育活動を行っています。

■「全校田植え」～普通科と農業科の融合～(5月)

同じ校舎で学ぶ三本木農業高校の生徒と共に、統合前からの伝統行事である「全校田植え」に取り組めました。農業科はもちろん、普通科の生徒も田植えに参加し、田植えの大変さや農家の方の苦勞、田植機の素晴らしさなど、様々なことを知る機会となりました。

また、生徒からは、「全員が全力で取り組める行事があることに感動した」との感想も寄せられました。



👉 普通科・農業科併置のメリットを生かしながら新たなことに挑戦し、これからの時代に求められる力を育みます!



# 特別支援学校への入学・転学、進学について相談してみませんか？

特別支援学校は、視覚障害、聴覚障害、知的障害、肢体不自由、病弱・身体虚弱の5つの障害のいずれか又は複数の障害を併せ有している子供たちが通う学校です。(それぞれの障害の程度は、学校教育法施行令第22条の3に示されています。)

各特別支援学校では、子供たちが安心して入学・転学、進学できるように **学校公開、体験入学、教育相談** を行っています。

特別支援学校への入学・転学、進学をお考えの方、進路先でお悩みの方は、是非一度お近くの特別支援学校、又は入学・転学、進学等を考えている特別支援学校にご連絡ください。

## ①学校公開

授業を参観したり学校の施設設備を見たりします。

## ②体験入学

実際の授業に参加します。

## ③教育相談

入学・転学、進学に関することや学習面・生活面等について相談できます。

令和3年度の学校公開、体験入学に関する情報はこちらから



### 青森市

県立盲学校(視)  
青森聾学校(聴)  
青森第一養護学校(肢)【小・中のみ】  
青森第二養護学校(知)  
青森第一高等養護学校(肢・知)【高のみ】  
青森第二高等養護学校(知)【高のみ】  
青森若葉養護学校(病)  
浪岡養護学校(病)

### つがる市

森田養護学校(知・知肢)

### 弘前市

弘前聾学校(聴)【幼・小・中のみ】  
弘前第一養護学校(知)  
弘前第二養護学校(肢)  
(国)附属特別支援学校(知)

### 黒石市

黒石養護学校(知)

### むつ市

むつ養護学校(知・知肢)

### 七戸町

七戸養護学校(知・知肢)

### 八戸市

八戸盲学校(視)【小・中のみ】  
八戸聾学校(聴)【幼・小・中のみ】  
八戸第一養護学校(肢)  
八戸第二養護学校(知)【小・中のみ】  
八戸高等支援学校(知)【高のみ】

### 各特別支援学校の対象

視:視覚障害者 病:病弱者・身体虚弱者  
聴:聴覚障害者 知:知的障害者  
肢:肢体不自由者 ※「肢・知」及び「知・知肢」は併置



各特別支援学校の連絡先はこちらから

問 学校教育課 特別支援教育推進室 TEL.017-734-9882

## 特別支援学校高等部生徒のキャリア教育・職業教育を推進します

# 青森県特別支援学校技能検定・発表会

期日 令和3年10月21日(木)

会場① 各学校(審査会場:県総合社会教育センター)  
(PC入力分野、コミュニケーション部門全分野)

会場② 新青森県総合運動公園マエダアリーナ  
(清掃分野、接客サービス分野)

※今年度は新型コロナウイルス感染症対策のため、無観客開催とします。ご了承ください。

青森県特別支援学校技能検定・発表会は、県内の特別支援学校高等部の生徒が授業で身に付けた技能を評価する職業技能部門と、生徒が思いや願いを表現するコミュニケーション部門の2部門6分野で実施しており、例年300名以上の生徒が検定・発表に参加しています。

昨年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、残念ながら大会を中止とし、各校で技能向上に向けた取組を行いました。今年度は一部に**オンラインを活用**し、一堂に会する人数を抑えることで、2年振りに開催する予定です。「特別支援学校就職サポート隊あおもり」のサポーター企業等のご理解とご協力の下、平成27年度のプレ大会を含め、今年度で**6回目の開催**となります。

### 令和元年度 大会の様子



職業技能部門「清掃分野(応用コース・基礎コース)」



コミュニケーション部門「パフォーマンス発表分野」

### 令和2年度 各校での技能向上に向けた取組の様子



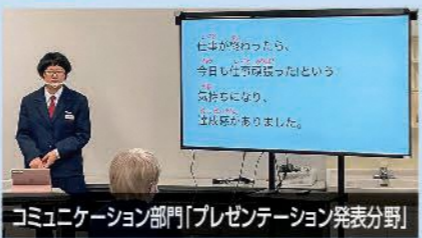
職業技能部門「接客サービス分野」



職業技能部門「PC入力分野」



コミュニケーション部門「ポスター発表分野」



コミュニケーション部門「プレゼンテーション発表分野」

大会の開催案内・当日の様子及び各分野の指導マニュアル・評価票は、大会事務局の県立青森第一高等養護学校のホームページに順次掲載されます。



★「特別支援学校就職サポート隊あおもり」  
県教育委員会では、障害のある生徒の働く力の育成や就職促進のための体制整備等を目指し、職場見学や就業体験等に協力していただける企業を登録しています。



問 学校教育課 特別支援教育推進室 TEL.017-734-9882

# 令和4年度から「青森県交流籍制度」が始まります

## 障害のある人とない人が共に学び合い、共に支え合う共生社会<sup>(\*)</sup>の実現に向けて

\*1:「共生社会」とは、障害者等が、積極的に参加・貢献していくことができる社会のことです。  
(H24.7 初等中等教育分科会「共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システムの構築のための特別支援教育の推進(報告)」)



### 「青森県交流籍制度」って、どんな制度なの？

県立特別支援学校の小・中学部に通っている児童生徒が、住んでいる地域の市町村立の小・中学校に副次的な学籍(青森県では「交流籍」といいます。)を置いて居住地校交流<sup>(\*\*)</sup>を行うことにより、住んでいる地域とのつながりの維持・継続・強化を図る制度です。



障害のある子供を地域の中で、地域の子供と一緒に育んでいきます。

\*2:「居住地校交流」とは、障害のある児童生徒が、居住地の小・中学校等の児童生徒等とともに学習し交流することです。  
(H24.7 初等中等教育分科会「共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システムの構築のための特別支援教育の推進(報告)」)



### 目的ってなに？

日頃から身近に障害のある人がいるということが認知され、障害のある人とない人が相互理解を深め、互いに支え合いながら地域で暮らす共生社会の実現を目指します。



### どんないいことがあるの？

#### 特別支援学校の児童生徒

- 小・中学校の子供たちと一緒に学び、互いを意識し合うことで、住んでいる地域とのつながりを強くします。
- 障害のあるなしにかかわらず共に助け合う力が身に付くとともに、活動に積極的に参加する力が身に付きます。
- 交流籍校の「学級」に所属し、交流籍校の子供たちとクラスメイトとして一緒に活動できます。

#### 小・中学校の児童生徒

- 障害のある子供たちと一緒に学び、互いの存在を分かり合うことで、個々の違いを認め合いながら他者を思いやる気持ちが育まれます。
- 感性として「心のバリアフリー」<sup>(\*\*\*)</sup>を身に付け、共生社会の担い手となるために必要な考え方が身に付きます。

\*3:「心のバリアフリー」とは、様々な心身の特性や考え方をもち全ての人々が、相互に理解を深めようとコミュニケーションをとり、支え合うことです。(H28.2ユニバーサルデザイン2020関係閣僚会議「ユニバーサルデザイン2020行動計画」)

### 「居住地校交流」の感想・お手紙

「居住地校交流」はこれまでも行われ、小学校の児童から、多くの感想や手紙をもらっています。「青森県交流籍制度」の導入により、これまでの「居住地校交流」の更なる充実を目指します。

今日もAさんとひさしぶりに会って楽しかったです。すこしニッコツしてくれたのでうれしかったです。Aさんとハイタッチしたときに手があたたかかったです。そして私はAさんが心の中で「ひさしぶりだね。」と言っていると思いました。(小2 女子)

B君、お元気ですか。ぼくは、元気です。この前のこうりゅうかいの時は、B君がいたからめっちゃ楽しかったです。次もこうりゅうかいがやれたら遊びをかんがえますので、その時いっしょにみんなとやってみましょう。(小3 男子)

問 学校教育課 特別支援教育推進室 TEL.017-734-9882